

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち  
教育の小径

No.177

2023 July

7月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

きゅうそねこ  
窮鼠猫を噛む

追い詰められた鼠は天敵の猫に食いつくように、絶体絶命の窮地に追い詰められると、弱者でも強者を打ち破ることがあることをいいます。

## 地域の伝統文化に触れさせたい

- 地域には、文化財や年中行事などさまざまな伝統的な文化が根づいています。夏休みは子どもたちがそれらに触れる絶好の機会です。
- 子どもたちは地域の伝統文化に関わることで、それらを継承・発展させることの大切さを理解し、地域の担い手として成長していきます。

## 地域にみられる伝統文化の理解

人々が生活しているところには必ず文化があります。文化には時代の変化とともに新たに創り出されるもの(創出文化)と、時代を超えて引き継がれているもの(伝統文化)があります。

人々の生活と文化は一体ですから、暮らしを構成する衣食住、仕事、スポーツ、芸能、行事などさまざまな分野に、伝統文化が根づいています。

伝統文化には、年間を通じてみられるものと時期が特定されるものがあります。前者には神社や寺院、城郭などの建物、陶芸や和紙などの工芸、剣道や柔道などの武道、浮世絵や水墨画などの絵画などがあります。後者には例えば夏祭りやお盆などの年中行事があります。このときには浴衣を着たり郷土料理(行事食)を作ったりします。神社で神楽を舞う地域もあります。

子どもたちに地域の伝統文化に理解と関心をもたせるためには、まず教師が子どもたちが生活している地域にどのような伝統文化が根づいているのかを理解する必要があります。ほかの地域から通勤している教師もおり、地域のことを必ずしも十分理解していないことがあります。

市(区)役所や町(村)役場の文化

財課などで、地域の伝統文化に関する資料を収集してはどうでしょうか。できれば夏休みを利用して、研修の一環として訪ねてみるのもいいですね。

## 夏休みは絶好のチャンス

夏休みは子どもたちにとって自由な時間です。地域の伝統的な行事が比較的多くみられます。伝統文化に触れる絶好のチャンスだといえます。

こうした機会を有効に生かすためには、いつ、どこで、どのような行事が行われるのかを事前に子どもたちに情報を提供する必要があります。地域の行事に参加していたり、教師以上に詳しく知っていたりする子どもがいる場合には、行事などの内容を説明させることも考えられます。

地域の伝統文化を実際に観る、体験する、参加することは、興味や関心をもつ「はじめの一步」です。

「行事はいつごろから、なぜ始まったのか」「行事の関係者は行事を続けるためにどのような苦勞をしているのか」など疑問をもった子どもには、これらを夏休みの自由研究として調べよう勤めることもできます。また、行事を保存・継承している人から直接話を聞いたり、博物館や郷土資料館などの学芸員から説明を聞いたりする

7月 今月の記念日

27日 スイカの日

生産者グループが消費拡大を目的に、スイカの縞模様を綱に見立てて制定しました。「な(7)つのつ(2)な(7)」は夏の綱です。

よう助言するとよいでしょう。

## 地域の担い手を育てたい

地域の伝統文化に触れることは、それらに関わっている人たちと交流することでもあります。それらの多くは大人です。日ごろはほぼ同年齢の子どもたちや限られた大人と接している子どもにとって、日ごろ接していない大人と接することは「大人の世界」を理解する貴重な機会になります。

地域のさまざまな伝統文化に関して子どもが興味をもったものに接することで、伝統文化に関心を持ち、それらのよさや特色、意義や歴史などを理解します。また、保存に努力している人たちに接することで、継承させることの大切さに気づき、さらに発展させていこうという意識が芽生えます。

その結果、子どもたちに地域社会の一員としての自覚や地域に対する誇りがはぐくまれていきます。このことがよりよい地域の形成者を育てることにつながります。伝統文化は地域の担い手を育てるよき教材だといえます。



## この資料からわかりません

資料を見て話し合っていたときです。早苗さんは「私の知りたいことはこの資料からわかりません。ほかの資料がほしいです」と発言しました。先生は「そうですか」と聞き流してしまいました。この場面でどうリアクションすべきだったでしょうか。

普通の授業では、資料を提示したとき、資料を見てどのようなことがわかるかを発表させたりノートに書かせたりします。

早苗さんの「この資料からはわからない」という発言は、資料の限界性に気づいたものです。わからないことに気づき、「わからない」と発言したこと、このことにまず称賛の言葉をかけることが大切です。これにより、ほかの子どもたちに「資料にはわかることとわからないことがある」という資料を活用することの意味に気づかせることができます。ここでは、資料がすべてでも絶対でもないことを伝える場として生かすようにします。

また、早苗さんは「ほかの資料がほしい」と、問題解決に必要な新たな資料を要求しています。これはきわめて優れた発言です。ここでは「早苗さんはどのような資料がほしいのですか」と、問い返したいところです。

資料を請求する能力は、問題解決するために必要な重要な能力だといえます。「そうですか」と言って聞き流してしまう場面ではありません。



## アメリカザリガニの放流禁止

アメリカザリガニは図画工作科の題材になったり、学級で飼育されたりしています。特に低学年の子どもたちには人気のある生き物です。アメリカザリガニは1927年（大正2年）に、食用のウシガエルの餌としてアメリカから日本に持ち込まれたそうです。今では全国に広がり、その結果、水生の植物や昆虫を消失させるなど生態系や環境に悪い影響を及ぼしています。

アメリカザリガニが、昨年の外来生物法の改正で、今年6月1日から特定外来生物に加わりました。特定外来生物は、飼育する際に許可が必要に

なります。アメリカザリガニは「条件付特定外来生物」となり、学校などでは引き続き飼育することができます。ただ、これからはアメリカザリガニの管理を一層厳しくする必要があります。野外に放出することはできません。

環境省は、ホームページでアメリカザリガニの正しい飼育方を呼びかけています。子ども向けに、普及啓発動画「入れない！捨てない！掘げない！STOPアメリカザリガニ」を公表しています。ここでは、アメリカザリガニの飼育方法を分かりやすく解説するなど、「すてる、にがす、はなす」ことを厳しく禁止しています。

子どもたちに視聴させ、生き物を最後までしっかり飼うことの大切さを指導したいものです。

## 北俊夫の「実践と研究」の足あと45

### 大学を離れても研究会や学校へ

平成30年3月に、10年間お世話になった国士舘大学を退職しました。48年間、組織の一員として仕事を行ってきましたが、組織を離れてはじめて、時間を自由に使うことのできる楽しさと自分でコントロールすることの難しさを味わうようになりました。ストレスの質が大きく変わりました。

各地の研究会や学校などから講師の依頼があると、テーマや課題にもとづいて話の内容を考えます。近年若い先生方が増えていますから、できるだけわかりやすく、具体的に話すようになっています。わかりやすくするために、話の構成を3つまでに絞ることを心がけてきました。それを話の最初に示して、心づもりをもってもらいます。

次に、聞いている先生がメモをとり

やすいように工夫しました。結論を先に示して、それを具体的な事例（たとえば）で説明し、最後に大切なことを改めて強調するという話の構成です。さらに、大事なポイントは決められた時間を守ることです。予定の時間が過ぎると、多くの人は時計を見たり落ちつかなくなったりするからです。

これらは私自身がこれまでいろんな方々の話を聞きながら感じてきたことを踏まえて、自分なりに工夫してきたことです。目標にしている落語家さんの域にはまだまだ達していません。

退職後の私にとって、原稿を書いたり研究会や学校などで話をしたりすることは、頭と心に緊張感をもたせる効果があります。「生きがい」にもなっています。病気になったりけがをしたりすると、先方に迷惑をかけます。健康に生きる源だと思っています。

## INFORMATION

### ばんげいの夏休み教材



4教科

たくさん取り組ませたいときにはこれで間違いなし!!



4教科

4教科をバランス良く取り組ませたいときにオススメです!!



2教科

負担が少ないライト版! 無理なく取り組ませたいときにはこれ!!

### NEW 夏休み がんばりチェック



登録無料

共通付録

夏休み中の児童の学習状況をデジタルで簡単に確認できます!

## 編集後記

岐阜県においても、「清流の国ぎふ」を担う子どもたちの育成に向け、ふるさと学習に力を入れています。私が生まれ育った町は愛知県の有松絞りが有名な町ですが、まずは自分が生活している地域の伝統文化を知り、そして好きになることで、将来的に地域活性化に繋がるような人材が育成されることを願っています。(Y記)



企画・編集：ばんげい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2023年7月1日